



レストランアリランの オススメの一品!



本館2Fに昨年11月にオープンし営業中の韓国料理レストラン「アリラン」が栄養食として出しているメニューがサムゲタン(삼계탕 参鸡汤)です。

サムゲタンは若鶏の腹の中にもち米と高麗人参、ナツメ、松の実、にんにくなどを詰めて長時間煮込んだ韓国の伝統的な料理の一つです。漢方薬材でもある高麗人参やナツメなどを材料として長時間煮込んだスープのエキスに含まれている栄養などから韓国では代表的な栄養食として知られています。主に夏バテの予防対策食として有名ですが、最近では季節に関わらず食べられるよう

になりました。

レトルトのサムゲタンも日本国内のスーパーなどで売られるようになり、家庭でも手軽に食べられるようになってはいますが、「アリラン」では全て厨房で手作りし、化学調味料は一切使わずに長時間煮込み、クオリティの高いメニューを提供しています。

ランチの時間帯にはパンゲタン(「パン」は韓国語で半分という意味で、鶏丸ごと一匹でなく半分を使って作ったサムゲタンのこと)を提供しています。

本格的な夏が訪れる前に滋養食としていかがでしょうか。

2012年3月までの その他の活動

日本語学校卒業式・卒業旅行



3月16日(金)「YMCA 東京日本語学校 2011 年度卒業・修了式」が行われました。大学院、大学、専門学校に進学する人、帰国して就職する人など、卒業生たちの進路は様々ですが、YMCA で学んだ日本語や経験を生かし、それぞれの道で活躍していくことをお互いに誓い合って巣立っていきました。

それに先立つ、3月9日(金)には卒業旅行に出かけました。あいにくの雨の中、初めて体験する「うどん打ち」や、長瀬渓谷の遊覧船などを大いに楽しみ、共に勉強に励んだ仲間たち、先生たちと素晴らしい思い出を作りました。

韓国伝統楽器・舞踊教室発表会



3月10日(土)、毎年恒例の韓国伝統楽器・舞踊教室発表会が行われました。チャング、カヤグム、舞踊、いずれも今回初めて舞台上立つ方から、ベテランの中上級者にいたるまで、多彩な内容の発表で、あっという間の2時間半でした。

日本と韓国 童謡の集い



3月31日(土)午後、9階国際ホールで、「YMCA 日本と韓国・童謡の集い」が行われました。今回で4回目の開催でしたが、春の開催は初めてだったため、選曲は春の歌が中心となりました。春の嵐が吹き荒れる悪天候にも負けず集まってくださった参加者の皆さんは、大人も子どももみんながいっしょになって大きな声で日本と韓国の童謡をたくさん歌い、会場には笑顔の花があふれました。また今回はゲストとして、東京韓国学校合唱団カンタービレと神田女学園吹奏楽部の皆さんが参加してくださいました。若さあふれる中高生の皆さんによる素晴らしい合唱そして演奏に対して、感動した会場の皆さんから大きな拍手、声援が送られました。

今後の予定 2012年4月～5月

【東京韓国 YMCA】

◆オリーブ平和映画祭 5月12日(土)

東京センテニアルYサービスクラブとの共催により、パレスチナの現状を紹介する映画を毎年上映しています。今年の上映作品は古居みずえ監督の最新作『ぼくたちは見た』です。

●4/21(土) 小説家・具孝書(ク・ヒョンソ)さんトークイベント

●5/14(月) 第221回 回教界指導者朝餐祈禱会

●5/26(土) 定期会員総会

【関西韓国 YMCA】

◆YMCA フェスティバル 5月19日(土)

3年に一度開催される韓国民俗芸術科による公演です。「날개(翼)」をテーマにした舞踊、プンムルなど多彩なプログラムをどうぞお楽しみください。会場：クレオ大阪中央、開場：18:00、開演：18:30、前売3,000円(小・中学生1,000円)、当日3,500円(小・中学生1,500円)

●5/18(金) 第104回 回教界指導者早天祈禱会

●5/19(土) 定期会員総会



YMCA 東京日本語学校学生募集中

《編集後記》

- 個人的に何もかもが新しくなった今年の春でした。満開した桜を楽しめる余裕もなく。皆さんはお花見しましたか。(朴)
- 知らない間に桜も終わりがけてました。慣れない感じのスーツ姿の若者を見るたびに年を感じる今日この頃…(才)
- 今年は冬が長く、寒さも厳しかったので、いつもの年よりも春の訪れをうれしく感じます。新年度、よいスタートをきれますように。(た)
- 腰痛は、一に安静、二も安静。三と四がなくて五にバランスのとれた食事。だいたい八番目くらいに適度な運動。(白)
- 私も宮古ボランティアに参加しました。食べ物がおいしかったです! また是非宮古に行きたいと思っています(決して食べ物のためではなく…)(AT)

KAKEHASHI かけはし 2012 Apr. vol.7
 発行人: 金秀男 発行: 在日本韓国YMCA アジア青少年センター
 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町 2-5-5
 TEL 03-3233-0611 FAX 03-3233-0633
 http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
 ayc@ymcajapan.org

『かけはし』次号は2012年7月発行予定です。

ツイッター @zainichiymsa Facebook Korean YMCA in Japan より良い紙面づくりのために、ご意見・ご感想等お寄せください。



かけはし

今後の被災地支援とは

～盛岡YMCA宮古ボランティアセンターを訪れて～
土屋塔子(YMCA東京日本語学校講師)

「被災地へボランティアに行ってみたくて…」「私も!」という話が事務室で持ち上がり、田附校長を通して、総勢5名(日本語学校スタッフ4名+私の知り合い1名)でボランティアに参加することになりました。

行くことに決めたものの、震災からは一年が過ぎ、「私達にできることがあるのか」という不安もありました。そんな気持ちのまま3月27日に深夜バスに乗り、28日の朝宮古駅に到着。駅周辺には津波の爪痕は見られず「やることないんじゃない?」という不安がさらに強まりました。が、とにかく活動拠点となっている宮古教会へ…。

宮古教会では横浜YMCAの大谷さんが迎えてくれて、朝食後、早速オリエンテーション。地震発生当時の様子を撮影した映像を見せてもらい、その後映像で見た場所を含む宮古市内や周辺を視察。がれきはかなり撤去されていましたが、津波で家が流されて基礎だけが残っているという風景が広がっており、一年経ってもまだまだなんだと感じました。でも、そんな風景の中、自転車で元気に走り回る子供達、操業を再開した菱屋酒造さん



中村煎餅店にて(筆者は左)

等を見て、少しずつ復興が進んでいるということもわかりました。

次の日の午前中は中村煎餅店さんへ行き、動いたピアノを元に戻すことや、中村さんがもらった物を整理するお手伝い等を行いました。物がたくさんあって「時間がかかるかな」と思いましたが、明るい中村さんとおしゃべりしながら片づけていたら、あっという間に時間が過ぎました。(2面に続く)

聖書に聴く 第7回 中鉉錫 牧師(シン・ヒョンソク / 八街グレイス教会)

聖書により知らされるモーセの生涯は、三期に区分することが出来る。第1期はエジプトの宮廷での40年、第2期は人を殺して罪を犯し、エジプトの王パロから追われ、ミデアンの地に逃れて羊飼いとて生きた40年、第3期は悔い改めによって罪赦されて神の僕となって働いた40年である。

彼の120年の生涯はどの期間も重要でなかった期間はない。だが、彼が神の僕として第3期(80歳～120歳)の輝かしい働きを全うすることが出来たのは、彼の王宮での榮化に満ちた生活と決別し、「苦難の民と共に生きる道を選んだ時」から始まる。聖書のヘブル人への手紙11章24節に「信仰によって、モーセは成人した時、ファラオの王女の子と呼ばれることを拒んで、はかない罪の楽しみにふけるよりは、神の民と共に虐待される方を選び、キリストのゆえに受けるあざけりをエジプトの財宝よりまさる富と考えました。与えられる報いに目を向けていたからです。」と記されている。

彼が第3期の80歳～120歳迄の期間を神の忠実な僕としての働き(エジプトで生きていた同族である奴隷を解放)を終えることが出来たのは、全く彼の青年時代の決断によるものであった。

その決断とは、(1) 罪の楽しみにふけることを退けることであった。この決断は青年時代には、特に難しいものである。モーセは敢えてこの決断を選び取った。

(2) 次は苦難を受けている民と共に生きる道を選んだことである。当時(BC1170年頃)イスラエルの民は、エジプトの奴隷として扱

き使われていた。当時のモーセは、イスラエル人の親から生まれたことを知っていた。だが彼は幸いにも、エジプトの王女の息子として育ててもらっていた。

ところで彼は、自分自身が望めばエジプトの王にもなれる資格を持っていた。だが彼はその地位を捨てて、神の民と共に虐待される方を選んだのである。

さて以上で見るように、モーセにしても、完全なる人間ではなかった。人を殺しその為にミデアンの地に逃亡して、40年間羊飼いとて生活したのだから。それでも彼は40年間を悔い改め続け、神に赦されて、イスラエルの指導者となり、苦難の民を解放する偉業を成し遂げることが出来たのであった。

おわりに、もし諸君の前にモーセが迫られたような栄華の道と虐待される道が備えられているとしたら、どの道を選ぶおつもりだろうか。この決断は非常にむずかしい!だが、イエス・キリストは広い道(門)ではなく、狭い道(門)を選びなさいと勧めておられる。狭い道の彼方には命に至る栄光が待っている、とおっしゃるのである。

今日世界的に展開しているクリスチャン青年運動は、1844年、当時の頹廃しているイギリス社会に対して胸を痛めていた青年たちによって始められた。当時22歳のジョージ・ウィリアムスが、他の青年11人と心を合わせてYMCAを創設したのである。彼らは①人格的なふれあい、②共同の祈り、③聖書の勉強。そして神を信じ、正しきを求め、社会に奉仕し、希望と幻を持つ為に献身した。

午後は浄土ヶ浜マリンハウスへ「さっぱ船」に乗りに行きました。そこも被災したそうですが、皆さんの頑張りですさっぱ船観光が復活したようです。そこの方は「津波で人が作った物は全部壊れたけど、自然はあまり変わっていない」と言っていました。

その後、赤前地区にある仮設住宅へ行って、イベントのチラシを配布。仮設住宅は場所によっては不便な所にあり、そこに住んでいる人はいろいろな所から来ていて、お互いのことを知らない場合も多いそうです。そうすると家にこもりがちになる人もいるとのこと。イベントは、知らない人同士が顔見知りにな



ってお互いに支え合っていけるようにという目的で行っているそうです。

被災地でのボランティアとは、がれきの撤去や家の掃除などをすることだと思っていました。しかし宮古を訪れてみて、今後のボランティアは次の段階にきている、ということがわかりました。

それはすぐには成果の見えないものですが、人と人をつなげるお手伝いをする事や、被災地を見に行き、その物を買ったり地元の人々と話したりすることです。また、被災地へ行けなくても、被災地の物を買ったり話を聞いたりすること等、震災や被災地を忘れない姿勢が、結果的に息の長い支援につながっていくのではと感じました。

宮古の皆さんの前向きな姿勢や温かさにふれて、私も元気になったような気がします。皆さんも機会があったらぜひ宮古を訪れてみてください。



浄土ヶ浜マリンハウスにて

考える「かけはし」 第7回 在日本韓国YMCAのホテル事業について

在日本韓国 YMCA ではホテル事業も運営していて、韓国からの旅行者はもちろん、いろいろな国からの旅行者が宿泊しています。

今回はそのホテルについて考えてみます。

私がまだ YMCA についてよく知らなかった頃、YMCA というとなぜか宿泊施設とくにユース的なホテルというイメージがありました。

なぜ YMCA が宿泊事業なのでしょう。「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(マタイによる福音書 25 章 40 節)

ある人がお腹がすいていたら食事を与え、のどが渇いていたら水をあげ、旅をしていたときには泊まる場所を提供し、着るものがないときには服をあげ、病気の時にはお見舞いし、牢に入れられるようなことがあれば訪ねてあげるように、私たちが出会う人たちに対して、そういう具体的な愛情をもった行動をすることが、すなわち、神さまを愛していることを表すということ。

また、その実践として、「努めて旅人をもてなさい」(ローマ人への手紙第 12 章 13 節)



「旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにして、ある人は、気づかないで御使たちをもてなした」(ヘブル人への手紙第 13 章 2 節)

とあります。つまり「旅人をもてなす」ということはまさに聖書の教える実践だといえます。また、その宿泊事業の中でもホテルというのは一番一般の人に開けたカタチで YMCA のモットーにも合致する事業といえるでしょう。

ただ、残念ながら現在日本国内の YMCA でホテル事業を行うのは、唯一、在日本韓国 YMCA だけになってしまっています。そんな厳しい状況下で、千代田区という日本の中心で、神への愛の実践のためホテル事業を続けるということは、とても重要なミッションであるといえるでしょう。

これまで YMCA のホテル学校は多くの一流ホテルマンを輩出しています。その根底にクリスチャニティーに基づくホスピタリティがあることは確かです。

日本で唯一の YMCA のホテルとして暖かいホスピタリティを持って「旅人をもてなす」ことを続けることは、まさに、神の愛をあらわし、聖書(神)と人をつなぐ「かけはし」の事業といえるでしょう。

2012年1月から3月のプログラム 2・8独立宣言第93周年記念式、 記念演劇公演「月南 李商在」盛大に開催

■2・8独立宣言 第93周年記念式

植民地下朝鮮における最大の独立運動である3・1独立運動の導火線となったことで知られる「2・8独立宣言」が、当時のYMCA講堂において朝鮮人留学生たちによって宣布されてから93周年を迎えた2月8日、今年も本会と大韓民国国家報勲処との共同主催により、「2・8独立宣言第93周年記念式」が盛大に開催されました。

式典には、申珥秀駐日全権大使、鄭亮聖国家報勲処次長、朴維徹光復会長をはじめとする内外貴賓の皆様にも多数出席いただきました。金大猷留学生連合会会長による独立宣言朗読は、あの日の感動を私たちに思い起こさせ、また来賓の皆様による記念辞、ご挨拶はいずれも、正義、公正の実現を目指して勇気を奮い立ち上がった当時の青年たちの思いを継承し、共生の未来を築く礎にしようという思いにあふれていました。また今年も東京韓国女性合唱団の皆様による合唱が式典に花を添えていただきました。

最後は、朴善貴在日本大韓民国青年会中央本部会長の先唱により恒例の万歳三唱が行われ、一同感激の内に式典の幕を閉じました。



■記念演劇公演「月南 李商在(ウォルナム イ・サンジェ)」

また今年も2月8日に合わせて、韓国から劇団JSシアターの皆様をお招きし、2・8独立宣言93周年記念演劇公演「月南 李商在(ウォルナム イ・サンジェ)」も開催されました。

記念式典終了直後には来賓の皆様の前でダイジェスト版が上演され、その後2月8日～10日の3日間にわたって行われた本公演には総勢500名をこえる方々が来場なさいました。

李商在(イ・サンジェ、月南<ウォルナム>は号)は、日本ではあまり知られていない人物ですが、本紙前号でも紹介した通り、19世紀後半から20世紀前半にかけて朝鮮近代史上の主要事件、主要団体のほとんどに関与した、歴史上の傑物です。今回の上演作品は、彼の青年期から晩年に至るまでの激動の生涯をたどる一代記でした。

朝鮮の近代化のために、また日本からの同化圧力に抵抗するために、そして次代を切り拓く青年の育成のために、彼がその生涯を捧げたこと、また獄中でキリスト教に出会って以降、後半生の活動の根拠地が当時設立間もなかったYMCAであったこと等がたいへんよくわかる内容で、一編の歴史ドキュメンタリーを見るようでした。ソウルオリンピック開会式等でも活躍された表在淳(ピョ・ジェスン)さんの演出は、音楽、映像などたいへん迫力があり、YMCAの小さなホールが別の空間のように感じられるほどでした。

観劇後のアンケートには、「日本ではあまり知られていない歴史の断面を見ることができました」、「舞台の狭さを感じさせないダイナミックな演劇でした」、「2時間の舞台をとて短く感じました」、「日本に生きる韓国人として、またクリスチャンとして、使命感を感じて生きなければと思われました」、「たいへん勉強になりました。青年、若者は未来の光です」などといった感想が寄せられました。

